

# 突然変異育種による養殖ノリの 高水温耐性品種の作出

【背景・目的・成果】 本県は全国有数の養殖ノリの生産地ですが、近年は秋季の水温の降下が鈍く、育苗や本養殖の開始時期が、平成の初め頃に比べて10日～2週間程度遅くなっています。このため、理化学研究所やJF兵庫漁連と共同で従来より高い水温で育つノリの開発に取り組んでいます。

イオンビームを用いた突然変異育種により高水温耐性品種の候補となりうるノリ45株を選抜しました。さらに、耐性の有無を検証するために未照射株との比較試験を行った結果、より良い生長を示す株があることを確認しました。

## ＜高水温耐性株選抜試験＞



理化学研究所の生物用実験装置で、成熟した糸状体にイオンビームを照射



照射した糸状体から殻胞子(種)を放出させて、育苗開始の目安とされる23℃より高い24～26℃で培養

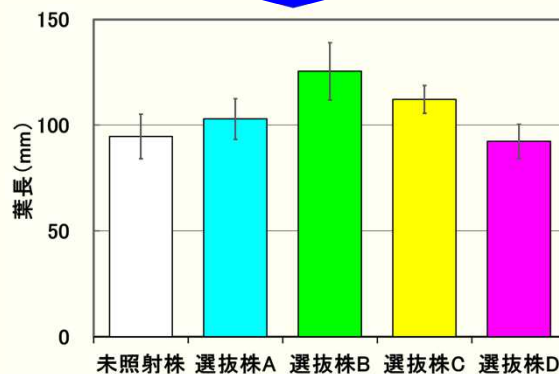


【培養終了時の葉体】 【高水温下で生長した葉体】  
ほとんどの葉体は縮れて生長しないが、まれに生長する葉体も出現することがあり、この葉体を選抜株として保存

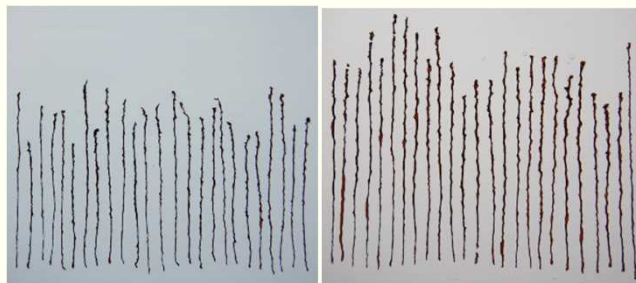
## ＜未照射株との生長比較試験＞



同一品種の未照射株と選抜株を24℃で30日間培養



葉長の測定結果  
(未照射株より生長の良い選抜株が存在)



【未照射株の葉体】

【選抜株Bの葉体】  
(スケールバー(赤線):100mm)

【今後の展開】 優れた高水温耐性を持つ株については、野外試験で特性を把握した後、JF兵庫漁連を通じて現場への普及を図る予定です。



兵庫県  
Hyogo Prefecture

兵庫県立農林水産技術総合センター  
水産技術センター

研究成果紹介  
動画サイト

